



日本初
生演奏と無声映画で綴る

オペラ座の怪人

From Joseph Yranki Collection, New York, USA

世界の名画を見る会 vol.30 企画・構成 高野悦子

舞台挨拶：高野悦子(岩波ホール総支配人)

映画：無声映画「オペラ座の怪人」
(1925年/75分/サイレント/モノクロ/ルパート・ジュリアン監督)

指揮：ガブリエル・ティボドー

演奏：フランス八重奏団

ソプラノ：岩井理花



高野悦子



ガブリエル・ティボドー



岩井理花

2009

6月20日(土) 開場13:30
開演14:00

黒部市国際文化センター

コラーレ (カーターホール)

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は、事前にご連絡ください。



フランス八重奏団

【全席指定】一般 3,000円 高校生以下 1,000円 障害者手帳をお持ちの方2,500円
(コラーレのみで発売) (コラーレのみで発売)

●お問い合わせ・チケットの申込み●

コラーレ

富山県黒部市三日市20番地
TEL. 0765-57-1201
FAX. 0765-57-1207
http://www.colare.jp/
e-mail: info@colare.jp

開館時間：9:00～22:30(土曜～23:00)／毎週水曜休館

■プレイガイド

コラーレ/黒部メルシー/魚津サンブラザ
入善コスモホール
アーツナビ(新川文化ホール・富山県民会館
富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール)



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

オペラ座の怪人

1925年/75分/サイレント/モノクロ
監督：ルパート・ジュリアン
出演：ロン・チェイニー
伴奏音楽作曲：ガブリエル・ティボドー



ごあいさつ

ちょうど10年前になりますが、コラーレで無声映画『笑う男』（1928年、アメリカ映画）を、フランス八重奏団の生演奏をつけてご覧いただきました。その時の感動を、まだ憶えていらっしゃる方もあるかと思います。

あれからフランス八重奏団の皆さんは世界各地からの要望を受け、新しく音楽をつけることによって、すぐれた無声映画の紹介に務めておられますが、常にコラーレのことを思い出されるそうです。それはコラーレの設備のよさ、スタッフの優秀さはもちろんですが、何より観客の素晴らしさが忘れられなかったからです。

このたび「もう一度コラーレで」という八重奏団の思いのおかげで、『オペラ座の怪人』（1925年、アメリカ映画）を皆さまにお見せする運びとなりました。天使の声を持つソプラノ歌手役に、黒部出身の岩井理花さんの参加が実現したことも素晴らしいことです。

これが第30回「世界の名画を見る会」記念番組であることも、私は心から嬉しく思っております。

高野悦子（岩波ホール総支配人）



19世紀末のパリのオペラ座 ——

オペラ座にはなぞの怪人が住み着いており、月給2万フランと5番ボックス席の常時確保などを支配人に要求していた。一方、若手女優クリスティーヌは、楽屋裏から聞こえる『天使の声』の指導で歌唱力を付け、頭角を現す。クリスティーヌの恋人ラウル子爵は、天使の声の主に嫉妬し謎を解こうとするが、その主こそ『怪人』であり、オペラ座の地下に広がる広大な水路の空間に住み着いた男エリックであった。エリックは生来の醜悪な人相に壊死した皮膚を持つ、見るもおぞましい異形の男であったが、投げ縄や奇術の天才であり、クリスティーヌに恋をしていた。エリックはついにクリスティーヌを誘拐し、オペラ座の地下深く消える。残されたラウルは元ダロガ（ペルシャ語で「国家警察の長官」という意味）の謎のペルシャ人とともに、クリスティーヌを追ってオペラ座の地下へと潜入する。

本作の1925年版は、「オペラ座の怪人」初の映画化作品となる。登場人物を必要最小限に減らした点と結末が異なる点以外は、原作に比較的忠実な映画化。エリックが「音楽と奇術に明るい、脱獄した猟奇犯罪者」に設定が変更されている。これ以降の映画版ではいずれもエリックが火事や事故などで醜悪な人相になったなど、その原因をアレンジして描いているが、本作は原作通り生来の醜さとしている。性格俳優ロン・チェイニーが特殊メイクを施し、『ドクロのような人相のおぞましい化物』という描写をほぼ忠実に再現しているのが特徴。またエリックがクリスティーヌに向ける愛も、やはり原作通り身勝手にストーカーまがいの狂気じみたものであり、ミュージカル版で顕著になった三角関係という解釈はまだなく、純粋な怪奇映画の体裁を持っている。

フランス八重奏団



1979年、クラリネット奏者ジャン＝ルイ・サジヨの主導で「フランス八重奏団」が設立。室内楽を中心に、18世紀から今日にまたがる広いレパートリーを演奏している。ピアノも加え、二重奏から九重奏の編成で演奏し、膨大なレパートリーを持つ。古典派、ロマン派だけでなく、公開の機会を忘れられた作品の中にも多くの素晴らしい作品があり、再発見を含む貴重な作品を提供している。また、今日の作曲家に新しい作品の作曲も依頼し、意欲的に世界を広げている。フランス八重奏団はフランスで恒常的に活躍するアンサンブルであり、さまざまなジャンルで活躍し、特に名作無声映画作品とのライブ演奏では、特異で大きな実績と功績を積み上げ、世界各国の映画祭に招聘されている。海外でも定期的にコンサート活動をしており、米国、スペイン、フィンランド、南アメリカ、パラグアイ、キプロス、イタリア、カナダ、日本、オーストラリア等で高い評価を受けている。